

# 岐阜農林事務所の普及活動状況

平成25年10月31日現在

## 今月の重点活動

### ■ブロッコリー **中間管理に関する栽培研修会を開催**

10月4～17日、JAぎふブロッコリー生産連絡協議会対象に、各地域で栽培研修会を実施した(計8か所)。農業普及課は気候の変動に対応できるよう中耕・土寄せ・追肥・病害虫防除などの中間管理についてその徹底を指導した。今回、現地で開催したことにより、参加者自身圃場の生育状況と見比べ、今やらなければならないことが確認された。早採り品種の「おはよう」では花蕾が上がり始め、10月末から出荷開始の見込みである。



【圃場での説明】

## 活力ある新産地づくり

### ■アスパラガス **新規栽培者のハウス導入進む**

管内には32名の栽培者がいるが、農業普及課は3haの産地化を目標に、今年度の新規栽培者に対するハウス導入に向けての支援を行っている。簡易ハウスやオープンハウスの展示ほ場を活用して、遊休ハウスの所有者や、団塊の世代の退職者などを対象に現地説明会を開催し、来年春の新植に向け、さらに産地拡大を図る活動を展開していく。



【新規導入地での井戸堀】

## 売れる農畜産物づくり

### ■ぎふクリーン農業 **登録更新講習会での支援**

10月16日、県シンクタンク庁舎でぎふクリーン農業生産登録講習会が開催された。農林事務所(農業振興課・農業普及課)は、講習会后(他会場とは異なり)岐阜地域の農業者を対象にした残留農薬検査に関する補助金の説明会を行い、円滑に登録更新が行えるよう支援した。



【講習会場 in 岐阜】

### ■かき **ベビーパーシモン収穫調査**

瑞穂市と本巣市のポット柿栽培農家で9/12～10/2にかけて収穫果実の品質調査をおこなった。農業普及課は、近畿大学が中核となる農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業に参画し、ポット柿でベビーパーシモン現地栽培実証を行っている。今年収穫したベビーパーシモンは重さ25g程度、糖度は平均20度以上で、高品質な果実を生産できることが実証された。新聞記事にも掲載されその反響は大きく、実証農家も今後は生産を拡大していきたいと意気込んでいる。



【果実調査】

### ■だいこん **祝大根作付始まる**

農業普及課ではJAとともに祝大根の生産拡大に努めている。今年は新規栽培者が3戸増加し、生産者は40戸となり、作付面積も前年比110%(見込み)の456aとなる。JAによる作業受託面積も前年比300%の36aとなる見込みである。肝心の播種作業であるが、天候不順が心配されたものの、10月12～16日に予定通り播種できた。

### ■かぶ、だいこん **秋かぶ、秋冬だいこん出荷開始**

各務原市のかぶとだいこんが10月上旬より出荷が始まった。それぞれの出荷目揃え会に

において、JAからの出荷基準の適正化指導、市場との情報交換に加え、農業普及課からも害虫の発生と防除、台風・大雨後の排水対策の徹底、今年の気象など情報提供を行い、今後の収穫・出荷作業について理解を図った。産地としては市場の要望に応えるため、早い時期（10月上旬）からの出荷を推奨しており、出荷ピークは10月下旬～11月上旬頃と考えている。

## 戦略的な流通・販売

### ■いちご 農商工連携でぎふいちごの販売戦略を検討

岐阜市では、ぎふいちごでつながった農商工業者が連携を深めている。今回の連携会議では、グループに分かれPR用のキャッチフレーズを検討した。また、新たな販売チャネル（関東出荷）や加工品の新商品についても情報交換を行った。農業普及課は生産者や各関係者が連携が密に行えるようにアドバイスを行った。



## 多様な担い手の育成・確保

### ■農業士会など 担い手情報交換会の開催

10月7日（月）、シンクタンク庁舎で農業者担い手交換会を行なった。中小企業診断士の講師を招いてプロとしての心構え等を聴き、岐阜地域の新規就農者や青年農業士から農業経営の取り組みや苦労話を聴いた。会終了後は新規就農者を交えた交流会も行い、有意義な情報交換ができた。



【プロ+訓を聞く】

### ■女性農業経営アドバイザー GLAMA視察研修が盛況裡に終了

県内の女性農業経営アドバイザー約70名、関係機関合わせ計110名が参加したGLAMA視察研修会が開催された。本年は岐阜が開催地となり、「岐阜らしさ」「交流を深める」「新規就農」をテーマにした内容で、「実のある研修だった」と感想を頂いた。午後の分科会では、新規就農者を応援するには何ができるかなど、アドバイザー本来の役割に関する討議も行われた。農業普及課では、アドバイザーが行う行事の相談役として支援を行ってきたが、アドバイザーがいきいきと主体的活動される姿に、普及指導員としてもやりがいを感じることができた。



【全員集合！】

## 県民みんなで育む農業・農村

### ■集落営農システム事業 鳥獣害対策への取り組み

山県市柿野地区では、集落営農システム事業を進めるに当たり、取掛りとして、地域ぐるみの鳥獣害対策に取り組もうと進めている。

10月9日、柿野地区本郷公民館において農村振興課酒井鳥獣害対策監を招いた研修会を、10月17日には同モデル事業に取り組む本巣市能郷地域と一緒に、郡上市の獣害対策先進地を視察する研修を行った。同じ小規模高齢化集落で先進的に活動を進めている能郷地域の生産者との情報交流もでき、また、和良地区での猪鹿鳥無縁柵の設置状況を直接目にし、手に触れ、今後の参考とした。



【先進地を視る】